正課とラーニングコモンズをつなぐ
学科の要望と学修支援内容の接続、ＩＲの活用

橋本智也（京都光華女子大学／ＥＭ・ＩＲ部）

正課と学修支援環境の接続が高等教育の質的転換を推進させることについて、事例を通して議論する。
大学には、学士教育課程を能動的な学修を促すものへ転換させることが求められている。その転換を進めるため、全国の大学は学修環境の充実に着目し、ラーニングコモンズの整備を進めている。しかし、ラーニングコモンズで行われる学修支援と、全学的な教育方針の連携が十分ではないという課題がある。そこで、京都光華女子大学では、全学科が学生に求める力とラーニングコモンズでの学修支援内容を接続させた。また、ＩＲ担当部署が学修支援内容の検討に役立つ情報の提供を行っている。

背景

将来を予測することが難しい時代の到来によって、生涯学び続け、主体的に考える力が必要となった。大学には能動的な学修を促す学士教育課程への転換が期待され、質を伴った学修時間の増加などが求められている［1］。

学修環境の充実と課題

全国の大学では、ラーニングコモンズなどの学修環境を整備することによって、その転換を促進させようとしている。実際に、ラーニングコモンズの設置が増えている（図１）。

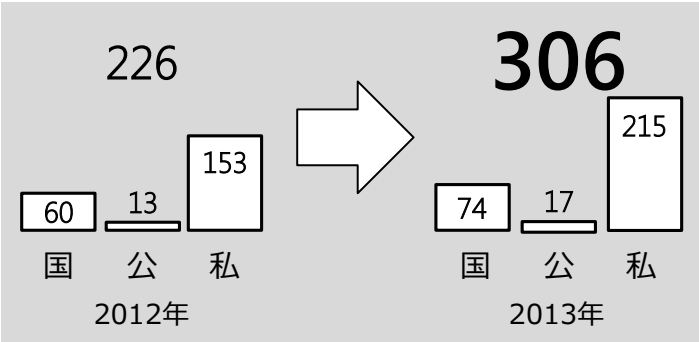

図１：アクティブ・ラーニング・スペースの設置館数
文部科学省「学術情報基盤実態調査（平成25年度）」より作成

ただし、ラーニングコモンズで行われる学修支援と、全学的な教育方針との連携が十分ではない［2］という課題がある。

学科の要望を支援内容に反映

そこで、ラーニングコモンズの開設準備時に「三つの方針」を参照。また、全学科から学修支援内容についての要望をヒアリングし、その結果を反映させて運用している（「国語力」の要望に対するノートテイキング支援など）。

ＩＲで学力などを情報提供

さらに、ラーニングコモンズの開設後に運営スタッフの教職員から「学修支援に役立つ情報」についてヒアリングし、学生のデータを分析した結果を情報提供している（学修時間・態度、新入生の基礎的な学力など；図２）。

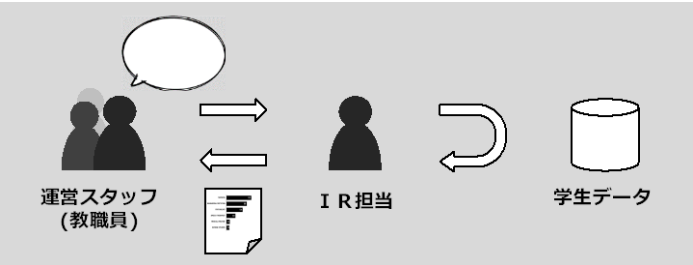

図２：学修支援内容の検討に役立つ情報提供の体制

全国の大学でラーニングコモンズの整備が進んでいる中、正課と学修支援環境をデータに基づいて接続させることで、質を伴った主体的な学修時間が増加し、高等教育の質的転換が進む。

［1］中央教育審議会（2012）．新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）
［2］奥田雄一郎（2012）．心理学からみた我が国のラーニング・コモンズにおける学びの動向と今後の課題　共愛学園前橋国際大学論集，12，91-103.